



特集：雪を知り、雪と生きる

雪害と対策の歴史 伏木で積雪量 225cm（昭和 38 年 1 月 27 日）を記録した 38 豪雪は、市民生活を直撃し大混乱を招きました。この災害後に、消雪やスノーシェッドなどの雪対策も含めた道路除雪・克雪技術がスタートしたことから、この年は「道路除雪元年」と言われています。

その後、昭和56年には56豪雪が襲来し、昭和59年から3年続けて大雪に見舞われました。これらの豪雪を契機に県が中心となり県民総ぐるみの雪対策がスタートし、機械除雪に加え消雪パイプや流雪溝などのハード対策が進められたほか、地域ぐるみの除排雪活動への支援（昭和59年）及び積雪情報や路面画像等のインターネットによる情報提供（平成8年）などのソフト対策も進められました。



38 豪雪（御旅屋通）



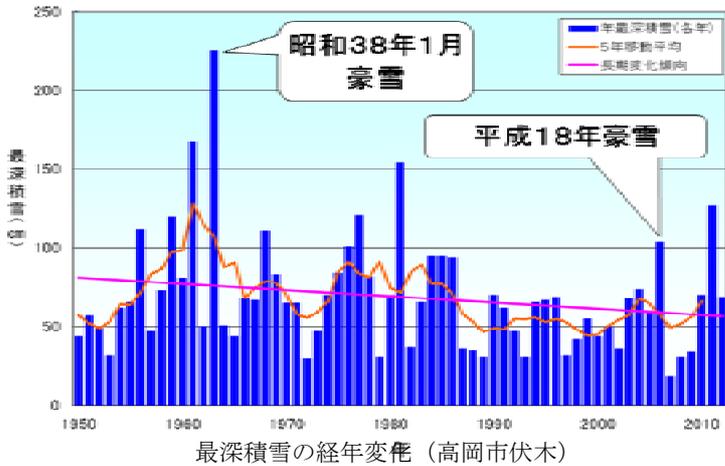
56 豪雪（野村地内）



H18 年豪雪（福岡町沢川）

近年の状況 この 10 年を振り返ると、少雪傾向にあるとはいえながら、全国的に多数の死傷者を出した平成 18 年豪雪など、雪の降り方は年によって異なります。平成 23 年には、福井県の国道 8 号で大型車のスリップにより長時間にわたり多数の車両が道路に停滞したり、J R 西日本金沢支社の全区間が民営化以来初めて終日運休（平成 23 年 12 月 31 日）となり、福井県では自衛隊の災害派遣も行われる事態となりました。

また、少子・高齢化、情報化、地域間交流の進展など、私達を取り巻く社会環境は大きく変化しており、雪対策についても時代背景を踏まえた対応が求められています。この様な中、携帯電話での路面情報の提供（平成 13 年）、県・市社会福祉協議会と連携した除雪ボランティア制度の開始（平成 18 年）、冬期気象・道路情報について携帯電話への自動メール配信登録開始（平成 19 年）などの事業が進められてきました。



降雪・積雪情報 雪に関する警報・注意報の発表基準は、下表のとおりです。これらの情報は、気象庁のホームページ (<http://www.river.go.jp/xbandradar/>) などで確認することができます。

高岡地域の雪害関係の警報等発表基準

警報	大雪	降雪の深さ	6 時間降雪の深さ 30cm
	暴風雪	平均風速	陸上・海上 20m/s 雷を伴う
注意報	大雪	降雪の深さ	6 時間降雪の深さ 15cm
	風雪	平均風速	陸上・海上 12m/s 雷を伴う
	低温	(冬期) 最低気温 -6℃ 以下	
	着氷・着雪	著しい着氷(雪)が予想される場合	

注意報	なだれ	1	24 時間降雪の深さが 90cm 以上あった場合
		2	積雪が 100cm 以上あって日平均気温 2℃ 以上の場合
融雪		1	積雪地域の日平均気温が 12℃ 以上
		2	積雪地域の日平均気温が 9℃ 以上かつ日平均風速が 5m/s かつ日降水量 20mm 以上

雪害対策（除雪作業の種類と出動基準） 道路除雪作業には、以下の種類があり、新降雪深が10cmを超え気象情報等からさらに降雪が予想される場合は「新雪除雪」、気温が0℃以下で路面が凍結し通行障害の発生が予想される場合は「凍結防止剤散布」など、作業毎に出動基準を設けています。

❄️ 新雪除雪

除雪トラックや除雪グレーダで新雪を路肩に除雪します。



❄️ 路面整正・圧雪処理

踏み固められた圧雪を除雪ドレーザなどで除去します。



❄️ 拡幅除雪

路肩の雪をロータリ除雪車で除去し車道幅を確保します。



❄️ 凍結防止剤散布

急勾配やカーブ区間等に散布します。



❄️ 歩道除雪

搭乗式小型除雪車



ハンドガイド式除雪機



住民協力による歩道除雪



除雪用スコップ



富山県冬期道路情報 気象台の発表する雪に関する警報・注意報や降雪予報、降雪予測情報、路面の凍結状況などを情報提供しています。登録すると、メール配信されるサービスもあるのでご活用ください。

<http://www.toyama-douro.toyama.toyama.jp/index.html>

<http://www.toyama-douro.toyama.toyama.jp/i/> 【携帯版】

富山県冬期道路情報サービス <http://www.bousai-mail.jp/toyama-douro/>



◆◆◆ お知らせ ◆◆◆

1 要援護高齢者の除雪支援

内容：自力で除雪が困難な高齢者の方などに対し、屋根の雪下ろしにかかった費用の一部を助成するもの。

対象： 市民税非課税世帯で次の条件に該当する方

〔 65歳以上の一人暮らし高齢者、65歳以上の高齢者のみ世帯、65歳以上の高齢者と小学生以下の子どもで構成される世帯、一人暮らしの障がい者世帯、障がい者のみ世帯、高齢者と障がい者の世帯 〕

助成回数： ひと冬2回まで 問合せ先： 市高齢介護課（電話：20-1373）

2 除雪ボランティアの募集

内容：市内の高齢者（65歳以上）・障害者・母子世帯等の家の玄関先から生活道路まで、安全に歩行できる範囲など必要な箇所の除雪を行うもの。（屋根の雪下ろしなどの危険を伴う活動は除きます。）

場所： 主な活動先は、登録された方の希望地域

活動日時： 平成25年1月・2月の午前9時から午後3時までの活動可能な時間帯

問合せ先・申込先： 高岡市ボランティアセンター（電話21-7883）

3 道路除雪の問合せ先

- ・市道…市道路除雪対策本部（電話64-5516）、市土木維持課（電話64-1453）
- ・国道…国土交通省高岡国道維持出張所（電話23-6776）
- ・県道…高岡土木センター施設管理課（電話21-9411 夜間は26-8428）

トピックス

1 | 防災士誕生！

昨年 10 月 20 日・21 日、富山県広域消防防災センターで地域の防災リーダーとなる防災士を要請するための研修講座が開催されました。高岡市からは、自主防災連絡協議会から推薦いただいた方などが参加し、新たに 8 名の防災士が誕生しました。今後は、自主防災組織などの場での活躍が期待されます。来年度も引き続き実施したいと考えています。



【防災士とは？】社会の様々な場で減災と社会の防災力向上のための活動が期待され、かつ、そのために十分な意識・知識・技能を有するものとして、NPO法人日本防災士機構が認定した人たちです。防災士には、家庭・職場・地域のさまざまな場で多様な活躍が期待されており、役割は大きく分けて、①災害時の公的支援が到着するまでの被害の拡大の軽減 ②災害発生後の被災者支援の活動 ③平常時の防災意識の啓発、自助・共助活動の訓練の 3 つがあります。

2 | 防災啓発用DVDを貸出します！

貸出事業として、これまで防災訓練時の資機材の貸出を行ってききましたが、「防災啓発用の映像を見たい」「防災訓練の中でDVDを貸して欲しい」などの声も聞きます。また、7月21日の豪雨災害もあったことなどから、「自主防災」「地震対策」「津波対策」「豪雨対策」などのDVDを新たに貸出することとしました。

自主防災組織の会合や防災訓練と併せてご活用ください。貸出を希望される方は、自主防災相談室（電話 20-1355）までご連絡ください。

地震で減災【24分】自然現象は防げなくても、被害は減らせる…この考え方が「減災」です。減災の基礎となる「自助」と「共助」の大切さを示し、地域防災への関心と参加意欲、当事者意識を呼び起こします。

大地震発生【18分】迫りくる地震や津波にいかに備えるべきか。大地震を体験した被災者の話から「本当に学ばべき教訓」を探っていき、耐震補強、危機意識、コミュニティ活動や情報の確保の大切さを伝えます。

3.11 東日本大震災から学ぶ【20分】東日本大震災時、登校していた小中学生が津波から逃げ切った「釜石の奇跡」の事例を紹介し、津波のメカニズムを解説し、津波から命を守るためにはどのような意識を持ち、どのような行動をすべきかを伝えていきます。

水害発生 その時!!【22分】想定を超える水害は誰にも予想できないもの。2004年に集中豪雨の被害を受けた新潟県三条市の現地取材を交え、「自分の身を守るのは自分自身」という自助の考え方が防災の基本であることを訴えます。

先進事例を紹介します！

横田校下連絡協議会

10月21日（日）防災訓練が実施されました。各自主防災組織で一時避難場所に避難したのち、横田小学校での高岡消防署の検閲訓練に参加し、初期消火、応急手当、心肺蘇生、炊き出し訓練などを一緒に行いました。



平米校下連絡協議会

11月04日（日）防災訓練が実施されました。平米校下では3年連続で訓練を行っています。各自主防災組織で一時避難場所へ避難したのち、平米小学校へ避難誘導して、消防隊、消防団の放水見学や初期消火、煙中体験、炊き出し訓練、チェーンソーの使い方を学びました。



辰ノ口東部地区防災会

平成23年1月末、伏木観測所で最大126cmの積雪量を記録しました。太田辰ノ口地区は、幹線道路は除雪路線となっていますが、古くからの町のため除雪車両の入れない狭い路地も多い地域です。辰ノ口東部地区防災会が中心となり、一人暮らしの高齢者宅や狭い生活道路の除雪を一斉に行いました。



出前講座に一言！

市では、防災知識の普及啓発のためのまちづくり出前講座を行っています。対象は、自治会や自主防災組織のほか、東日本大震災後は各種団体等からの依頼も多くありました。今回は、その中から出前講座の感想についてコメントを紹介します。

「東日本大震災から学ぶ」高岡市身体障害者協会会長 堀まり子さん

被災直後の避難所生活の映像を見た後で、非常時持ち出し品やポータブルトイレなどの災害対策用品の実物を見ることができました。「避難所の身障者用のトイレはどの様なものだったのか？」「高岡市の対策はどうか？」など聞きたいことが沢山あります。講演時間が短くもっと話を聞きたいという声も多かったので、今後も機会があれば活用したいと思います。

「防災訓練と防災講和」富山日伯交流友の会代表 木口実さん

ブラジルは自然災害の少ない国で防災について知識がほとんどありません。出前講座の防災訓練を終え、皆、災害のための準備や発生した時の行動が以下に大切かを知り、日本の災害に備えた生活を送るようになりました。



「津波について」太田小学校PTA会長 早木康満さん

東日本大震災が発生し、太田小学校の生徒たちは、自分たちにできることを考え被災した小学校に励ましの手紙やメッセージを送るなど、積極的に活動している時に出席講座に来ていただきました。海のそばに建つ学校なので参加した大人も子供も自分のことのように津波被害のスライドを見ていました。これからも募金活動など支援を続けていきたいです。



「東日本大震災から学ぶ」高岡第一学園高岡第一高校 内山裕貴さん

これまで、防災は行政だけがやるものだと思っていたけれども、日ごろからの自分の意識や地域のつながりが大切なことが分かりました。家に帰ったら、まずは備蓄の食料や避難経路などを見直そうと思います。



「高齢者の地震対策」JA高岡女性部もえぎの会(東五位支部) 吉岡玲子さん

出席講座に合わせ、会員が作成した防災頭巾を高齢者の皆さんにかぶって頂き命の大切さを学びました。4枚重ねのタオル製の頭巾は、避難先で座布団、一枚はずして洗顔用、内側には下着を入れておくこともできる優れモノです。これを機会に高齢者の方々に防災に関心を持っていただけたらと思います。

「東日本大震災から学ぶ」女性ネット高岡会長 辻やす子さん

昨年8月23～24日、東日本大震災の発生した東北地方の万葉集ゆかりの地『多賀城市』へ訪問。被災地域の人達、殊に子ども達と婦人会連合会役員100名と交流。絆の確認と共に、連合会員が被災の折の教訓①非常食を中心とする携帯品の常備②早期情報のキャッチ③避難場所の確保等学習し、今も絆を深めています。この活動の展開に際し、出席講座を含めた研修会やネット各地区婦人会において防災学習会を実施し、住民ひとり一人の災害時に対応する意識の徹底と地域ぐるみの防災組織の必要性を痛感。



「喉元過ぎた後にこそ、熱さを忘れず」防災体制づくりを市と協働することを確認した一年でした。

☆☆ 寄稿いただいた皆さん、コメントありがとうございました。【市総務課危機管理室】 ☆☆